

インターバンクの声（2017年12月1日）

昨夜の円相場は、前日の予想以上に上振れした7-9月期の米GDP改定値やイエレンFRB議長の米経済の先行きに対する楽観的な発言などからドル続伸となっていたが、ニューヨーク市場の朝に一旦ドル売り調整が入った。トランプ政権が以前から噂が絶えなかったティラーソン国務長官の更迭を検討していると報じられ、112円台半ばから111円70銭台までドル売りが進んだ。同氏は北朝鮮問題に対し終始外交的手段での解決を主張してきただけに、更迭されれば次の国務長官はタカ派の人物になる公算が高くなるとあって、市場がリスク回避に傾いたのも仕方ない。ドルはユーロに対しても大きく下げ、久々に1.19ドル台中盤近くまで売られた。それでもニューヨーク市場の昼前にはドルが対円で急速に買い戻されている。共和党の重鎮ジョン・マケイン上院議員が税制改革修正法案に対して支持を表明したためだ。病気を理由に引退を表明していたので反対を押し通すかと思われたが、まさかの支持表明となっている。このため法案可決への期待が広がっており、実際に可決されればもう一段のドル買いが見られるかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。